

拠点 FD/SD 研修における履修証明書発行の試み

穂屋下 茂*1・角 和博*2

Email: hoyashis@cc.saga-u.ac.jp

*1: 佐賀大学全学教育機構

*2: 佐賀大学教育学部

◎Key Words 教育質保証, FD/SD 研修, モチベーション, 履修(受講)証明書, 共同利用拠点

1. はじめに

著者らは、2001年頃よりeラーニングシステム(LMS構築、教材制作、メンターによる支援)構築の実践的研究を重ねてきた。ネット授業(VOD型フルeラーニング)¹⁾や同期型遠隔授業²⁾は今でも本学の授業で実践的に継続している。その間、インターネットスキルの進展は目覚ましく、継続は容易ではなかったが、何とか中止することなく継続してきた。コンテンツ制作やLMS等の維持は外注することなく学内で進めた結果、ICT活用スキルが学内に蓄積され、人材育成(デジタル表現技術者養成プログラムの実施³⁾や佐賀大学コンテンツデザインコンテスト⁴⁾の実施、佐賀デジタルミュージアム⁵⁾の構築なども行い、本学の特徴にもなっている。

そこで、本学に蓄積されたICT活用教育実践スキルを中心に連携大学の先進的な実践スキル等も集結したICT活用教育共同利用拠点を設置し⁶⁾、全国の大学のICT活用教育環境の維持を容易にし、教員・職員のICT活用教育

能力を高め、我が国の教育の質向上に向けた教育改革を促進することにした。教員・職員のICT活用レベルに応じた研修の実施(教育の質を高めるためのICT活用スキルや協同学習方法等の共有)、eラーニングシステム構築及び教材制作の知識・スキルの共有、初年次教育・キャリア教育等の共有教材の発掘・共同開発、先進的ICT活用スキルを適用した質の高い教材開発及び授業の評価方法の改善などを進めようとしている。本稿では、FD/SD研修の実施について報告する。

2. 研修

2.1 研修内容の分類

本学の全学教育機構クリエイティブ・ラーニングセンター(以下、CLセンター)は、教育関係共同利用拠点(ICT活用教育)として、全国の大学教員・職員に向けてどのようなFD/SD研修開催が適しているのかを調べるために、多様な多くのFD/SD研修を企画し実施している⁷⁾。2017

表1 2018年度開催予定の拠点研修等の一覧表

分類	研修ID	研修会名	講師	定員	日時	時間	ワライ
1	18d0001	VOD型eラーニング	穂屋下 茂、他	-	~2019年2月末	-	-
2	18d0101	第3回クリエイティブ・ラーニングセンターフォーラム		-	03/19(火) 13:00~17:00	4	×
3	18a0101	Moodle(3.x)の体験(学生権限+教師権限)と活用	穂屋下 茂	30	06/15(金) 13:00~17:00	4	○
4	18a0201	ICT活用教育実践に伴う著作権研修	木村 友久	30	06/22(金) 13:00~18:00	5	○
5	18a0301	知っておきたい大学における知的財産権	木村 友久	30	06/23(土) 09:00~15:00	5	○
6	18a0401	英語教育におけるMoodle運用と携帯端末の活用	上村 隆一	30	06/29(金) 13:00~17:00	4	○
7	18a0501	Moodleインストールと運用	梅崎 卓哉	5	07/09(月) 13:00~18:00 07/10(火) 09:00~15:00	10	×
8	18a0601	MoodleCloudを利用したモバイル学習環境の構築—設定から運用まで	上村 隆一	30	08/11(土) 13:00~17:00	4	○
9	18a0701	PowerPointスライド資料を利用したPCによるビデオ教材作成	堀 良彰, 高崎 光浩	30	08/31(金) 13:00~17:00	4	×
10	18a0801	Moodle(3.x)の体験(学生権限+教師権限)と活用(短縮版)	穂屋下 茂	30	10/20(土) 10:00~12:00	2	×
11	18b0101	インプロ・ライブ ~人生は即興芝居~	今井 純	30	09/01(土) 13:00~18:00 09/02(日) 09:00~15:00	10	○
12	18b0201	レゴ®・シリアスプレイ®の実践(1) チームビルディング (※仮)	青柳 達也	30	09/15(土) 13:00~18:00	5	○
13	18b0301	レゴ®・シリアスプレイ®の実践(2) アイデンティティ (※仮)	青柳 達也	30	09/16(日) 09:00~15:00	5	○
14	18b0401	身体技法としてのマイムを用いたコミュニケーション能力の向上	清水 きよし	30	09/23(日) 09:00~15:00	5	○
15	18b0501	eラーニングのための授業デザイン	角 和博	30	10/20(土) 13:00~17:00	4	○
16	18b0601	インストラクショナル・デザインを活用した授業改善	鈴木 克明	30	11/19(月) 13:00~18:00 11/20(火) 09:00~15:00	10	○
17	18b0701	協同学習を基調にしたアクティブ・ラーニング型の授業づくり	関田 一彦	30	12/22(土) 13:00~18:00	5	○
18	18b0801	導入・LTD話し合い学習法	安永 悟	30	12/23(日) 09:00~15:00	5	×
19	18b0901	演劇手法によるコミュニケーション能力向上プログラムの開発	平田 オリザ	30	03/18(月) 13:00~18:00 03/19(火) 09:00~12:00	8	○
20	18c0101	地域課題解決のためのオープンデータ活用	堀 良彰, 他	30	09/08(土) 13:00~17:00	4	×
21	18c0201	モーションキャプチャによる統合ビジュアライズ	若井 雅幸	5	09/22(土) 13:00~18:00 09/23(日) 09:00~15:00	10	×
22	18c0301	画像編集ソフトを用いた印刷物の制作	永溪 晃二, 古賀 崇朗	20	10/20(土) 13:00~17:00	4	×
23	18c0401	4Kシネマカメラの特徴と撮影方法	河道 威	5	11/10(土) 13:00~16:00	3	×
24	18c0501	バーチャルスタジオ収録システムを用いた合成映像コンテンツの体験と制作	古賀 崇朗, 永溪 晃二	10	11/23(金) 13:00~17:00	4	×
25	18c0601	映像制作実践入門	河道 威	5	01/12(土) 13:00~19:00 01/13(日) 09:00~13:00	10	×
26	18c0701	3Dソフトウェア「Maya」について	未定	未定	未定	10	×
27	18c0801	教員に向けたデザインの基本やPhotoshopやIllustratorの使い方	未定	未定	未定	未定	×

*注意) 講師や開催日時等は変更になることがあります。

年度に企画した研修・フォーラムを表1に示す。ICT活用教育スキル⁸⁾、アクティブ・ラーニングの体験と手法、主体的学びなど、今後効果的なICT活用教育を進める上で必要な要因を含んでいる⁹⁾。高度情報化社会の教育に必要な高度な映像教材や3DCG教材の作成¹⁰⁾とその利用（AR、VR、MRなど）などの研修も開催して、本研修プログラムをより特徴あるものにする。これらの研修を大きく分ければ、④ICT活用教育の共通基盤となるLMSの活用（図1）、③先進的教育手法習得（図2）と②先進的なメディア活用スキル（図3）、および①その他（VOD型研修など）に分類できる。

2.2 研修の形態（方法）

一般に研修はワークショップを伴う場合が多いので、

原則集合研修となるが、可能な範囲でオンライン上でも履修できる体制を構築する。研修は3つの形態で履修できるようにした。①集合研修（CLセンターのICT教育クラスルーム等の会場に集合して対面式で実施）、②オンライン研修（集合研修の会場からWebCast配信してWeb上でも聴講可能）、③VOD型研修（事前に作成したVOD型eラーニングコンテンツで視聴）である。

一般に、研修は対面形式の集合研修で開催される場合が多いが、インターネットの普及、特に遠隔授業の実践力が向上していることから、研修のオンライン化による履修の利便性が求められている。そこで、本研修では可能な範囲で集合研修の一部をオンライン研修としてWebCast配信できる¹¹⁾ようにした。また、本学はネット授業も実施しているので、過去に収録した研修の一部（主に講演部



図1 共通基盤eラーニング



図2 各種のアクティブ・ラーニング（教育にどのように活かせるか）



図3 モーションキャプチャや3DCGソフトウェアの基礎的な利用スキルを探る

分) から VOD 型 e ラーニング研修教材を作成することにした。

2.3 オンライン研修

ICT 教育クラスルームで集合研修を行っている様子を図4に示す。ICT クラスルームの図面を図5に示す。教室の後ろに Web カメラを設置して、講師映像、講師用 PC の PPT 映像、タブレット端末のカメラ映像などを、YouTube, Upstream, ニコニコ生放送, Facebook など配信する設備を整えた。オンライン学習環境を実施するのに、準備や当日に多くの支援者(スタッフ)を要すると通常業務に差し障りがでるため、実践は困難となってしまう。本研究においては講師のみで全ての操作を行える環境構築を目指すことにした(図6)。

3. 研修の実践

全国の大学の ICT 活用教育環境の維持を容易にするために、各種の研修を開催して全国の大学の教職員の ICT 活用教育能力を高め、必要な教材や評価システムを開発し、共同利用することにより、我が国の ICT を活用した教育の質向上に向けて FD/SD 研修を推進する。本取組の実施に際しては、職員の資質向上の観点を重視し、職員の ICT 活用能力向上のプロセスを明らかにして各取組を実施することとしている。

3.1 研修効果の調査など

効果的な FD/SD 研修には効果的で効率的な PDCA サイクルの実施が必要である。

(1) **教育改善に対する意識調査:** とりわけ重要なのが、履修した FD/SD 研修はどのような効果があったのか、それを受けながら自分の教育への意識がどのように変化したのかであり、それらを把握し、改善策を立てていかなければならない。最終的には、教育力や授業力の伸びを測定できる評価項目や指標を備えたルーブリック等を作成できると役に立つと考えられる。そこで、教職員らの教育改善に向けた研修効果の意識調査を試行することにした。10 分程度で回答できるアンケート形式の調査票を作成した。

(2) **研修後の追跡調査の実施を実施:** 今後の拠点の在り方や研修内容の検討のため、本拠点で研修された方々の追跡調査を行った。メールアドレスの分かっている受講者 232 人にご協力を依頼したところ、91 名から回答があった(回答率 39%)。そのうち大学教員は 68 名であった。その結果の一部を表 2 に示す。大雑把ではあるが、研修に参加した成果はあったように見える。また、開催予定の研修の参加希望を聞いたところ、20%以上の方が 15 研修、さらにそのうち 30%以上が 7 つあった。

3.2 FD/SD 研修履修(受講)証明書

1 つの研修だけでなく、ICT 活用スキルや AL スキルの資質向上を意識した習得コースを設定し、佐賀大学独自の FD/SD 研修履修証明書を発行する。研修は、④ICT 活用教育の共通基盤となる LMS の活用スキル習得、⑧先進的教育手法習得、⑨先進的 ICT 活用スキルの習得など、ICT を活用した主体的学びを進める上で必要な要因を含んだ研修プログラムとする。そこで、履修証明のための 2 つ



図4 ICT 教育クラスルームでの研修



図5 集合研修+オンライン研修



図6 講師用 PC 画面と管理用 PC 画面
(講師一人でも全ての機器を操作可能な環境)

の「先進的教育手法習得コース」と「先進的 ICT スキル習得コース」を提供する。履修証明は、集合研修、オンライン研修、VOD 型研修等で規則に従って履修した時間の合計により決定される。

なお、履修証明書は 60 時間以上を 2 ヶ年に渡って受講することを考えているが、本拠点は 2018 年度で第 1 期間

を終わり、あらためて継続申請しなければならないので、2018年度は限定で受講証明書として、20時間以上で履修規定を満たせば発行できるようにした。

4. 考察とまとめ

研修履修者のモチベーションを向上させるために、次のような取組を行う。

共同利用する大学への支援として、特に「Moodle(3.x)の体験(学生権限+教師権限)と活用」の研修(一般教育向け、英語教育向け)を重点的に進める。

また、履修証明書型コースプログラム

として、研修履修者のモチベーションや資質向上を図る。すなわち、1つの研修だけでなく、ICT活用の基礎的スキル、AL実施スキル、高度情報化社会に向けたメディア活用スキルの資質向上を意識した習得コースを設定し、佐賀大学独自の履修(受講)証明書を発行する。

研修はワーキングを伴う場合が多く、対面式の研修が好ましいので原則佐賀大学のCLセンターにおいて集合研修で実施するが、遠方の大学の利便性を図り、集合研修をWebCast配信するオンライン研修も徐々に増やす。また、非同期型eラーニング研修用としてVOD型eラーニング教材も増やす。さらに研修の主部(ストーリー)を書き起こして、紙タイプ書籍や電子書籍等で発行する。

その他、大学eラーニング協議会と共同して、プレイスメントテスト、到達度テスト、豊富な自学自習教材を使った学生の基礎学力を上げるための取組を支援する。また、ICT活用教育を補佐する、アクティブ・ラーニング(主体的・対話的で深い学び)の手法の導入プログラムも利用範囲を広げる。さらに、高度情報化社会の教育コンテンツ作成環境を想定して、より先進的なICT活用教育専門家を育成するプログラム開発を行うことにしている。

謝辞

本研究を進めるに当たり、多大のご協力をいただいたクリエイティブ・ラーニングセンターの及びスタッフの皆様がこの場を借りて、あらためて感謝の意を表す。本実践研究の一部は、教育関係共同実施分「全国の大学間連携によるICT活用教育の拡充と教育改革の推進」により行った。

参考文献

- 1) 穂屋下 茂:学部教育におけるeラーニングの利用と評価, nime, メディア教育研究, 1-1(2004-11), 31-43.

表2 拠点FD/SD研修参加後追跡調査

選択項目				(人)	(%)
	教員	職員	一般	合計	割合
Q 受講理由					
スキルアップのために積極的に参加した	58	3	8	69	76
職務上の必要性などから参加するように要請された	6	2	2	10	11
興味のある分野だったので参加した	34	4	11	49	54
Q 研修による気持ちの変化について					
以前から教育に対し前向きであったが、研修によってより前向きになった	47	3	11	61	67
Q 研修受講後の自身の変化について					
違う視点から問題をみることができるようになった	28	2	11	41	45
ICT活用推進に取り組む姿勢ができた	18	2	3	23	25
教育への意識が高まり元気になった	19	1	2	22	24
教育に対する責任感が高まった	19		1	20	22
Q もっと深く学びたいことについて					
ICT活用方法(Moodle等のLMS)	20	0	3	23	25
ICT活用方法(LMSで利用できるeラーニングコンテンツの制作)	19	0	3	22	24
コミュニケーション技術の応用的な展開	27	4	12	43	47
ファシリテーターとしての教員の役割	25	2	4	31	34
問題解決のための思考法	28	2	11	41	45
Q 研修参加後の履修生同士の関係性について					
人脈作りの場となった	37	6	10	53	58
同じ悩みを持つ人と出会った	16	1	4	21	23
Q 同僚や後輩への研修の推奨について					
是非とも研修に参加することを勧める	17	1	7	25	27
参加した方が良いと勧める	37	3	8	48	53
Q 研修参加後の評価					
昇進や昇給などに反映して欲しい	14		1	15	16
学内FD/SDと同様に扱って欲しい	30	1		31	34
Q ICT活用教育(eラーニング)について					
研修前からいくつかの科目(研修)の一部にICT活用教育を利用	39	3	1	43	47
eラーニングを授業の一部に活用してみたい	17	1	4	22	24
実施してみたいが、利用できるコンテンツがない	9	2	8	19	21

- 2) 米満 潔, 古賀崇朗, 永溪晃二, 高崎光浩, 穂屋下 茂: 大学コンソーシアムでの同期型遠隔授業の環境構築と実践, 教育システム情報学会誌, 29-3(2012), 165-169.
- 3) 穂屋下 茂(監修): 就業力を育むデジタル表現技術者養成プログラム—創造的表現力を重視したアクティブ・ラーニングの実践—, 五弦舎, (2016-3).
- 4) 穂屋下 茂, 米満 潔, 田口知子, 河道 威, 古賀崇朗, 永溪晃二, 田代雅美, 中村隆敏, 高崎光浩, 角和 博: 主体的学びを育む佐賀大学コンテンツデザインコンテストの開催, 佐賀大学全学教育機構紀要, 佐賀大学全学教育機構, 第3号(2015-3), 43-53.
- 5) 古賀崇朗, 田代雅美, 米満 潔, 河道 威, 永溪晃二, 梅崎卓哉, 中村隆敏, 角 和博, 高崎光浩, 穂屋下 茂: 地域の歴史や文化を保存・継承・発信する佐賀デジタルミュージアムの構築, 佐賀大学全学教育機構紀要, 佐賀大学全学教育機構, 第4号(2016-3), pp.165-173.
- 6) 穂屋下 茂: ICT活用教育共同利用拠点の構築(ネット授業スタジオからクリエイティブ・ラーニングセンターまでの展開), リメディアル教育研究, 日本リメディアル教育学会, 11-2(2016), pp.205-211.
- 7) 穂屋下 茂, 角 和博, 中村隆敏: ICT活用教育とALを導入した主体的学び環境の構築に向けて, 大学eラーニング協議会フォーラム(岩手県立大学)(2018/2/28), pp.18-19.
- 8) 穂屋下 茂, 上村隆一, 梅崎卓哉, 堀 良彰: 教育力を向上させるためのMoodle(3.x)のFD/SD研修の試行について, 佐賀大学全学教育機構紀要, 佐賀大学全学教育機構, 第5号(2018-3), pp.171-180.
- 9) 角 和博, 青柳達也, 河道 威, 穂屋下 茂: 主体的学びを推進するための基盤となる教員スキルの獲得に関する研究, 大学eラーニング協議会/日本リメディアル教育学会合同フォーラム2017(岩手県立大学)(2018/2/28), pp.92-93.
- 10) 梅崎卓哉, 角 和博, 穂屋下 茂, 清水きよし, 若井雅幸: パントマイムの動作分析と3DCGアニメーションによる再表現の研究, 2018PCカンファレンス熊本(全国大会)(2018/8/25).
- 11) 穂屋下 茂, 梅崎卓哉, 福崎裕子, 角 和博: オンライン配信も利用したFD/SD研修の試み, 佐賀大学全学教育機構紀要, 佐賀大学全学教育機構, 第5号(2018-3), pp.197-207.